

雲仙岳：活火山のある風景

雲仙岳、妙見岳、国見岳、そして普賢岳を成す四大峰はすべて古くからある山ですが、平成新山は1990年11月から1995年の間に2億立法メートルの溶岩を噴出した大噴火によってできた溶岩ドームです。火砕流と呼ばれる、高速に流れる火山ガスの雲や火山噴出物は山頂から5km近くの地点まで到達し、四十数人の科学者が死亡しました。山津波と火山灰による被害は広範囲におよび、降雨によりさらに拡大。これにより11,000人以上の住民が避難し、約2,500軒の住宅が破壊されました。

火砕流の爪痕は今もはっきりと残っていますが、溶岩に飲み込まれ破壊された森林や植物は少しずつ回復してきています。まず最初に戻ってきたのは、過酷な環境でも生長する草や低木林、そしてツツジ。モミジを始めとする広葉樹などの大きな樹木も次第には根を張り始め、自然の蘇生は続きます。

現在、山は嚴重に監視されており、地表に岩が転がり未だ不安定な平成新山を除くすべての登山道が利用可能となっています。ロープウェイの終着駅は、半島を一望できる最高地点の一つである妙見岳山頂にあります。野鳥観察を楽しみたい方は、神社の左側から始まる登山道を少し歩いたところにある、あざみ谷エリアがお勧めです。あざみ谷にはシジョウカラ、ウグイス、ヒタキなどの鳥類が生息しています。